

# 美術科

## 1 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

教科の目標は、小学校図画工作科における学習経験と、そこで培われた豊かな感性や、表現及び鑑賞に関する資質・能力などを基に、中学校美術科に関する資質・能力の向上と、それらを通じた人間育成の一層の深化を図ることをねらいとし、高等学校芸術科美術、工芸への発展を視野に入れつつ、目指すべきところを総括的に示したものである。

教科の目標は、教科で何を学ぶのかを明確に示すとともに、具体的に育成することを目指す資質・能力を(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。教科の目標の実現に向けては、これらの(1)、(2)、(3)を相互に関連させながら育成できるよう確かな実践を一層推進していくことが求められる。

### ○教科の目標(1)

育成することを目指す「知識及び技能」について示している。前半部分は、造形的な視点を豊かにするために必要な知識に関するもの、後半部分は、創造的に表す技能に関するものであり、教科の目標(1)は、この二つから構成されている。

### ○教科の目標(2)

育成することを目指す「思考力、判断力、表現力等」について示している。美術科において育成する「思考力、判断力、表現力等」とは、表現の活動を通して育成する発想や構想に関する資質・能力と、鑑賞の活動を通して育成する鑑賞に関する資質・能力であり、教科の目標(2)は、大きくはこの二つから構成されている。

### ○教科の目標(3)

育成することを目指す「学びに向かう力、人間性等」について示している。教科の目標(1)及び(2)に関する資質・能力を、どのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。主体的に美術の学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、美術の創造活動の喜び、形や色彩などによるコミュニケーションを通して生活や社会と主体的に関わること、美術文化の継承と創造に向かう態度、豊かな感性や情操など、情意や態度等に関するものが含まれる。

## 2 指導要領の趣旨及び要点

### (1) 趣旨

中央教育審議会答申における成果と課題を受け、具体的な方向性が次のように示されている。

#### (成 果)

- ・創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること。

- ・生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと。

(課題)

- ・感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成すること。
- ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること。

(具体的な方向性)

- ・感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、内容の改善を図る。
- ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。

(2) 要点

① 目標の改善

教科の目標では、感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視する。

- (1) 「知識及び技能」については、造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能に関するもの。
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」については、表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方などに関するもの。
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」については、学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操などに関するもの。

② 内容の改善

教科の目標の改善に基づき内容を整理するとともに、次のような視点を重視して改善を図る。

ア 表現領域の改善

- ・「A表現」の内容を育成する資質・能力を一層明確にする観点から、項目を発想や構想に関する資質・能力と技能に関する資質・能力の二つの観点から整理する。
- ・主体的で創造的な表現の学習を重視し、表現の学習において、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想をすることを重視して改善を図った。

イ 鑑賞領域の改善

- ・「B鑑賞」の内容を、アの「美術作品など」に関する事項と、イの「美術の働きや美術文化」に関する事項に分けて示した。

ウ 〔共通事項〕の改善

- ・感性や造形感覚などを高めていくことを一層重視し、〔共通事項〕を造形的な視点を豊かにするために必要な知識として整理し、表現や鑑賞の学習に必要な資質・能力を育成する観点から改善を行った。

エ 各学年の内容の取扱いの新設

- ・第1学年、第2学年及び第3学年のそれぞれに各学年の内容の取扱いを新たに示し、発達特性を考慮して、各学年における学習内容や題材に配する時間数を十分検討するとともに、「思考力、判断力、表現力等」を高めるために、言語活動の充実を図るようにする。